

第6回黒潮町地区防災計画シンポジウム

11月7日(土)、総合センターで「第6回黒潮町地区防災計画シンポジウム」が開催され、約200人が来場しました。

シンポジウムでは、入野小学校や大方児童館、出口地区、川奥地区からこれまでの活動報告がありました。また、昨年の台風19号で被災した長野県長野市長沼地区の住民自治協議会・小田信幸事務局長から、その経験や地区防災計画や避難ルールブックの作成について話がありました。

その後行われたパネルディスカッションでは、「地区防災計画で考える共助」をテーマに、5名が登壇し、共通の課題とともに立ち向かうことの重要さなどを考えました。



パネルディスカッション

参加した大方高校教員の浦田友香さんは、「ほかの所ではどんな取組をしているのかを聞くために参加した。これからの活動の参考にしたい」と話しました。

佐賀小中学校合同避難訓練

佐賀小学校と佐賀中学校の全校児童・生徒らが10月30日(金)、合同避難訓練を行いました。

この訓練は、隣接する小中学校がともに訓練をすることで、実際に災害が起きた際に助け合えるようにとの思いで数年前から年に1回実施されています。

当日は、午後1時50分に地震が発生し、その後約1分間揺れが続くという想定で実施。揺れがおさまった後、子どもたちは互いに声を掛け合いながら、学校の裏手にある避難場所のコウジン山まで避難しました。

訓練後、浜町地区の河内香区長は「みんな頑張つて避難していた。災害はいつ起きるかわからないので、普段から警戒心を持って行動して」と総評を行いました。



声を掛け合い避難を行う子どもら

また、佐賀中学校3年の稲田寿佐さんは、「小学生と一緒にできて良かった」と感想を話しました。

大方児童館防災教育プロジェクト南郷小とエクストレッチャー訓練

大方児童館が2016年度から取り組んでいる「児童館防災教育プロジェクト」の一環として、11月6日(金)、災害時に人を運ぶことができるエクストレッチャーを活用した訓練が南郷小学校と合同で行われました。

参加したのは、大方児童館・子ども会に所属する4〜6年生12名と南郷小学校6年生8名。初めての取組で、同館で使用方法を学んだ後、万行地区の避難タワーでエクストレッチャーに実際に人を乗せ、階段の上り下りを体験しました。

南郷小の村上潤弥さんは、「みんな運べば重くなかった。地震が起きた時には動けなくなっていた人を運んであげたい」と話しました。



人を乗せて階段を上がる児童ら

逃げトレ活用で大方高校生があつたか利用者と避難訓練

大方高校生が「逃げトレ」アプリを活用し、11月10日(火)、あつたかふれあいセンターみうらの利用者と避難訓練を行いました。

この日参加したのは、同校の地域創造コースで地域学を学ぶ2年生6名。京都大学が開発した津波の浸水状況を確認しながら避難のシミュレーションができるアプリ「逃げトレ」を使用し、あつたかふれあいセンター利用者とともに2グループに分かれ、高台まで徒歩で避難をしました。

「外バタケ」という避難場所へ向かったグループは約9分で到着。津波到達想定時間より27分ほどの余裕を持って避難成功となりました。参加した同校の宮川翔さんは、「とても良い経験になった。次は夜間など、周りの状況が見えないような環境でも試してみたい」と話しました。



高台へ避難訓練をする参加者

「とても良い経験になった。次は夜間など、周りの状況が見えないような環境でも試してみたい」と話しました。